

株式会社 クレディセゾン

障害者雇用の沿革

法定障害者雇用率の達成をめざして、2年ほど前から障害者雇用に積極的に取り組み始める。ハローワークの企業合同説明会をはじめ、Web募集や人材紹介会社などを幅広く活用し、事務職を中心に契約社員として雇用を推進。ここ数年は毎年3名ほどの新卒正社員を採用している。

障害を意識しすぎず、 本人の働く意欲と能力を 仕事に生かすことが大切です。

同僚と筆談で打ち
合わせする林さん
(中央)



「新入社員として成長してほしい」それが課内の基本姿勢

マーケティング部営業企画課は、データを分析して顧客のニーズをつかんだり、企画を立案し、実現化へ向けてまとめたりと、常に積極的な取り組みが求められる部署です。そのため新入社員は配属しないのが通例でした。磯部泰之課長は、新入社員で、しかも聴覚に障害を持つ林 師玄(イム サヒョン)さんが、いきなり営業企画課に配属されると聞き、最初はとても心配したそうです。

「事前に課のメンバーに聞いたら、障害のある人と接したことがある者はいませんでした。対応の仕方も分からずに彼を受け入れ、ただでさえ厳しい仕事をやってももらえるのか、正直言って不安でしたね。」



配属の初日、磯部課長は林さんが手配した手話通訳者から「彼はある程度口話もできます。障害者ということを意識しすぎず、ごく普通に接してください」とアドバイスを受けました。それを聞いて、障害を意識しすぎるのが、かえって林さんを疎外する結果につながることに気づいたそうです。「こちらが意識すれば、本人もそれを感じます。厳しくするときは厳しく、普通に新入社員に接するようにやればいい、と分かって楽になりました」。課の仲間も林さんを特別扱いしないように心がけているそうです。

連絡事項や打ち合わせは筆談で確実に伝達。また、課内では状況に応じてパソコンのチャットやメールも有効に活用されています。



所在地：東京都豊島区
 事業内容：クレジットカード業・金融・小売 他
 従業員数：1,633名
 雇用障害者数(人数)：59名(重度20名・軽度19名)

障害のある人にしかできない 発想を仕事に役立ててほしい

林さんの現在の主な仕事は、統計解析ソフトを使ったクレジットカードの利用データの分析、商品動向などのレポート作成や新企画の提案などです。「気軽に話しかけたり、質問したりしにくい分、苦労は多いと思います。でも、彼がやっているのは、新入社員が仕事を覚えるために必要なことです。私たちも、韓国から来日して勉強し、日本の会社で働こうという彼の意欲を尊重して、早く仕事を覚えてもらえるようにサポートしたい」と磯部課長。

職場内のコミュニケーションを円滑に進めるために、みんなで試行錯誤しながらメールや筆談、チャットなどを活用。林さんから手話も習い始めました。重要な会議には手話通訳者を手配することもあります。上司には日誌をメールで送ってもらい、仕事の報告とともに悩みなどの相談もできる環境を整えています。「彼は障害があることで、逆に私たちの知らない世界を持っています。日本と韓国の聴覚障害者の懸け橋として奔走するなど、個人的なネットワークも広く、韓国のカードビジネスの知識もある。彼の目標のひとつは障害者のためのカードサービスを作ることだそうです。障害をプラスに捉え、彼らしい仕事にどんどん力を発揮してほしいですね」

「みんなにも手話に関心を
 持ってほしい」と机には手
 話辞典が。



雇用前の相互理解が よい結果につながる

クレディセゾンが障害者雇用に積極的に取り組み始めたのはここ数年のこと。現場の理解もようやく広がろうとしているところです。人事部人材開発課で障害者雇用に担当している若松夕香さんは言います。「大切なのは受け入れたいという気持ちだけでなく、お互いに相手に何を望むのかをしっかりと確認し合うこと。面接で必ず何うのは、何ができて何ができないのか、そして、こちらが何を準備すればよいのかということです。会社として無理なことは最初にはっきりさせておかなければ、結局うまくいきません」

人事部では、採用する障害者の配属部署に対して、障害者雇用を進めていくという会社の方針をまず説明して理解を得ています。その上で、すでに就業中の障害のある社員の事例を伝えるなどして、受け入れ前の態勢づくりを進めているそうです。今後は、障害者への精神的なフォローや雇用後の教育も課題です。受け入れ側の研修など、やるべきことも多いと感じているそうです。

「障害者雇用に関しては、私自身、まだ学ぶべきことはたくさんあります。できる限り情報や知識を得て、よりよい職場環境で働いていただけるよう、努力していきたいですね」

「特別扱いせずに、前向きに受け入れて、彼の力を伸ばしたい」と話す磯部泰之課長(左)。



人事部人材開発課
 障害者雇用担当の
 若松夕香さん



イム サヒョン
林 師玄さん
 32歳 聴覚障害
 営業本部 マーケティング部
 営業企画課

この職場と出逢って...

この会社は自分の努力を必ずフィードバックしてくれる、やりたいことを積極的に応援してくれる企業風土がある、と強く感じています。

はじめは、外国人でしかも聴覚障害があることで、社内で特別視されるのではないかと不安がありました。実際に働いてみると、周りの人たちが私を理解しようと努力してくれていることが分かり、ホッとしました。私の方からも、できるだけ仲間と一緒に昼食をとるなど、私自身が壁をつくらないように心がけようと考えています。